

平成28年度

事務事業評価表 A (平成27年度の実績評価)

記入年月日  
平成 28 年 4 月 1 日

Table with columns for 事務事業名, 学校評価事業, 事業区分, 担当, 政策体系, 予算科目, 法令根拠. Includes details for 'O301 学校教育の充実' and '03 豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり'.

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

Table with 2 columns: ①事務事業の概要 (事務事業の全体像) and ②担当が行う業務の内容・やり方・手順. Includes text about school evaluation and implementation.

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with columns for ①手段, ②対象, ③意図, ④活動指標, ⑤対象指標, ⑥成果指標. Includes data for '桜川市公立幼・小・中学校' and '26年度' to '30年度'.

(3) 投入量 (事業費) の推移

Table showing input amounts for 26, 27, 28, 29, 30 years. Includes categories like 国庫支出金, 事業費計(A), 人件費, and トータルコスト(A)+(B).

Table for 事業費の内訳 (Breakdown of business expenses) for 27 and 28 years, with columns for 27年度事業費実績 and 28年度事業費予算.

(4) 当該年度の実施内容

Table for implementation content for 28, 29, and 30 years. Includes a note: ※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する. Includes an arrow pointing to '市長マニフェスト'.

|       |        |         |             |     |       |
|-------|--------|---------|-------------|-----|-------|
| 事務事業名 | 学校評価事業 | 事務事業No. | 30103000180 | 所属課 | 教育指導課 |
|-------|--------|---------|-------------|-----|-------|

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

|   |   |
|---|---|
| (5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? | 平成14年4月に施行された小学校・中学校設置基準により、小・中学校はその教育水準の向上を図り、該当学校の目的を実現するため、該当小・中学校の教育活動その他の学校運営の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとされた。また、平成19年の学校教育法施行規則の改正により、「自己評価」の実施とその結果の公表が完全義務化となり、「学校関係者評価」の実施及びその公表が努力義務とされた。これに伴い、桜川市でも本事業を行っている。 |
| (6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?        | 自己評価における施策の重点化と短いスパンでのPDCAサイクルの実施による学校運営の検証改善を図るとともに、学校関係者評価の一層の充実を図る。保護者・地域への一層の公表により説明責任が求められる。   |
| (7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容                                    |   |

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

| 評価項目  |   |
|-------|---|
| 目的妥当性 | ①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)<br><input checked="" type="checkbox"/> 結びついている<br>学校運営の改善と発展性、教育の水準の向上と充実につながる。   |
|       | ②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)<br><input checked="" type="checkbox"/> 妥当である<br>法改正により、設置者への報告が義務付けられた。保護者や地域住民への公表は、説明責任を果たすことになる。  |
| 有効性   | ③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)<br><input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある<br>文部科学省改訂学校評価ガイドライン等により、学校評価の一層適切な実施を求めていく。特に、学校関係者評価、評価結果の公表、設置者への報告様式(今年度は3段階評価を新たに設定)等の工夫改善を図りたい。 |
|       | ④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)<br><input checked="" type="checkbox"/> 影響有<br>学校運営の改善と発展性、教育の水準の維持向上と充実が望めない。   |
|       | ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む))<br>(他に手段がある場合) → 具体的な手段、事務事業名<br><input checked="" type="checkbox"/> 余地がない<br>統廃合の可能性はない。   |
| 効率性   | ⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)<br><input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない<br>事業費は組んでいない。各学校の学校評価を指導室内でも共有し、丁寧に実態の把握と、設置者としての課題等を分析する意味でも維持していく必要がある。                                      |
| 公平性   | ⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)<br><input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である<br>市内全ての学校に共通した取組である。   |

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

| (1) 1次評価者としての評価結果  | (2) 全体総括(振り返り、反省点)   |     |    |     |  |  |  |  |    |    |    |    |    |  |  |  |    |  |   |  |    |  |  |  |
|--|--|-----|----|-----|--|--|--|--|----|----|----|----|----|--|--|--|----|--|---|--|----|--|--|--|
| ①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり<br>②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり<br>③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり<br>④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり | 各学校で、重点課題を絞り込み、PDCAマネジメントサイクルを機能させ、年に2回程度の学校評価を実施し、課題の達成状況の検証改善に努めた。また、全小中学校で学校関係者評価委員会を実施し、外部による評価を実施できた。さらに、学校だより、HPなどを利用し、工夫をしながら積極的に結果公表することで、説明責任を果たすことができた。  |     |    |     |  |  |  |  |    |    |    |    |    |  |  |  |    |  |   |  |    |  |  |  |
| (3) 今後の事業の方向性  | (4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)  |     |    |     |  |  |  |  |    |    |    |    |    |  |  |  |    |  |   |  |    |  |  |  |
| <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 → <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う →<br><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 → <input type="checkbox"/> 現状維持  | (複数回答可)<br><input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善<br><input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善<br><input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる   |     |    |     |  |  |  |  |    |    |    |    |    |  |  |  |    |  |   |  |    |  |  |  |
| (5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策   | <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> |     |    | コスト |  |  |  |  | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 |  |  |  | 維持 |  | ○ |  | 低下 |  |  |  |
|  |  | コスト |    |     |  |  |  |  |    |    |    |    |    |  |  |  |    |  |   |  |    |  |  |  |
|  |  | 削減  | 維持 | 増加  |  |  |  |  |    |    |    |    |    |  |  |  |    |  |   |  |    |  |  |  |
| 成果   | 向上   |     |    |     |  |  |  |  |    |    |    |    |    |  |  |  |    |  |   |  |    |  |  |  |
|  | 維持   |     | ○  |     |  |  |  |  |    |    |    |    |    |  |  |  |    |  |   |  |    |  |  |  |
|  | 低下   |     |    |     |  |  |  |  |    |    |    |    |    |  |  |  |    |  |   |  |    |  |  |  |
| よりよい評価項目の作成について他学校の学校評価をもちより、研修し合うことが大切でありそのための研修する機会を教務主任会などで設ける。   | (6) 事務事業優先度評価結果<br>成果優先度評価結果 ⑧<br>コスト削減優先度評価結果 ⑥   |     |    |     |  |  |  |  |    |    |    |    |    |  |  |  |    |  |   |  |    |  |  |  |

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

|   |  |
|---|--|
| (1) 課長評価  | (2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合) |
| 課長確認後の評価<br><input checked="" type="checkbox"/> B<br>A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止<br>B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出 | 確認欄<br><input type="checkbox"/>        |